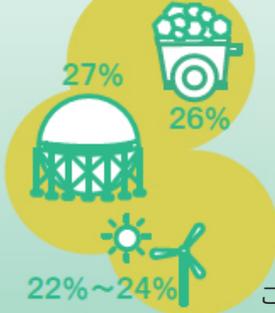
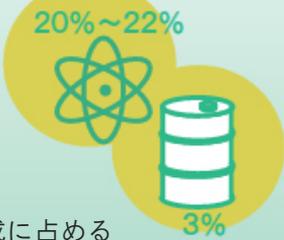


将来のことを話し合おう

日本のエネルギー・原子力



大阪開催レポート



日本のエネルギー政策では、2030年度の電源構成に占める各電源の割合を「長期エネルギー需給見通し」として示しています。このような目標に対し、どのように取り組んでいけばよいのでしょうか。2030年には社会の中軸を担うことになる学生とともに、将来のエネルギー社会について話し合いました。

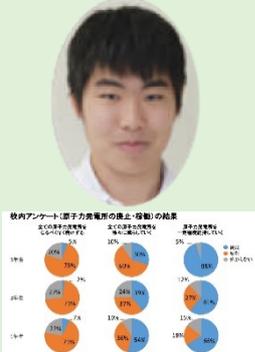


第1部 発表 13:05 ~ 13:45

私たちが考えるエネルギー政策

「福井高専の学生から見た原子力発電」 内海安久璃氏(福井工業高等専門学校)

福井高専の学生にアンケートを実施したところ、「原子力発電を維持する」という回答が多く、高レベル放射性廃棄物の処理について理解している人は、ほとんどいませんでした。そのため、動画サイトやSNSを利用したの情報発信や、学校教育のなかでのエネルギー・放射線教育の充実が必要だと思います。



「私たちが考えるエネルギー政策」 東嵩晃氏(近畿大学 理工学部 電気電子工学科)

2030年の電源構成の目標を見ると、原子力発電はこれからも継続する見通しです。その場合、中間貯蔵施設の不足などの課題が残ります。一番の問題は、エネルギーミックスやバックエンドの課題をほとんどの人が知らないことで、日本のエネルギー問題について、もっと多くの人が理解していく必要があると思います。



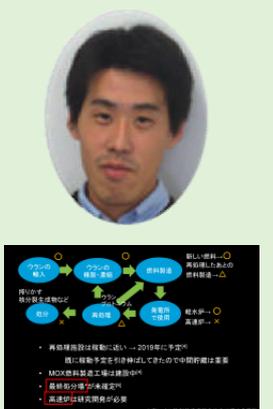
「電源構成から考える日本の課題」 島津美宙氏(近畿大学 理工学部 生命科学科)

原子力は危ない、S+3Eって何？省エネって何をすればいいの？など、興味がない人たちに、エネルギー問題に関心をもってもらうにはどうしたらよいのでしょうか。この問題の解決のためには、教育の充実や、学ぶ対象に合わせたアプローチ方法の検討、将来のエネルギーを担うことのできる人材を育成することが必要ではないでしょうか。



「核燃料サイクルとその重要性」大平直也氏 (福井大学工学研究科 総合創成工学専攻)

核燃料サイクルの形成により、原子力は輸入に頼らない持続可能なエネルギーとして期待されていましたが、現在も高レベル放射性廃棄物の最終処分場や、高速炉の研究開発などで課題があります。現在の原子力発電所を再稼働すれば、2030年の電源構成の目標は達成しますが、さらに、その割合を持続させていくためには、新たな原子力発電所の建設や、高速炉開発が必要です。





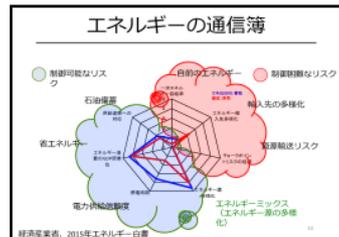
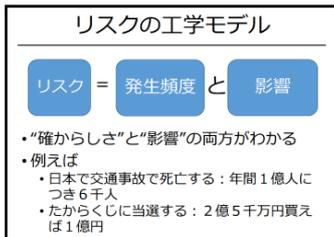
第2部 講評・講演 13:45 ~ 14:35

将来のエネルギー選択のポイント ～リスクのとりえ方～



山口 彰氏
東京大学大学院
工学系研究科
原子力専攻
専攻長・教授

エネルギーは私たちが豊かなくらしを実現するための根幹となるものです。今の豊かさを支えていくためには、将来のエネルギーの選択肢を広げる努力が必要です。しかし、人間の役に立つ産業のリスクをゼロにすることは不可能です。豊かさを支えるということに我々が価値をみいだすとしたら、その選択に対してリスクを負わなければいけません。日本の将来のエネルギー選択について、何に価値を見いだすか、みんなで考えていく必要があります。特に若い世代にとっては一番大切な仕事ではないでしょうか。



第3部 トークセッション 14:45 ~ 15:40



内海くんのギモン

原子力発電所のテロ対策はどのようになっているのでしょうか？

原子力発電所を安全に運営するのが電力会社の使命です。テロだけでなく、色々な事態を想定し、国とも連携しながら対処します。

また、仮に重要な設備が破壊されるようなことがあっても、大きな事故に進展しないよう代わりの設備をつかって対処する訓練を実施するなど、安全性を高めていくことを常に考えています。

高島勇人氏（関西電力株式会社 原子燃料サイクル部長）



東くんのギモン

本当に地層処分は安全なんでしょうか？人間の手が入ったら、地層に影響が出てくるのでは？

人工の手が入るといっても、最終的には隔離された元と同じ状況にします。技術的には問題ないと考えていますが、その根拠となるデータを国の研究施設などでも取得しているところです。ただ、疑問を持って、いろんなシナリオを考えてみることは重要だと思います。山口彰氏（東京大学大学院教授）

経済産業省は、日本全国を四色に色分けして、地層処分に好ましくないだろう、可能性があるだろう、といった範囲を示した科学的特性マップを公表しました。

処分場所を選定するまでには、それぞれの地域で地下の環境の影響はどうか丁寧に調査していく必要があります。科学的特性マップの提示を契機に丁寧な対話活動を進め、最終的に場所を決めていく方向に繋がっていきたいというのが今の方針です。

小澤典明氏（経済産業省 資源エネルギー庁 資源エネルギー政策統括調査官）



島津さんのギモン

エネルギーの知識のない人にオススメのHPはありますか？

当社ではSNSも活用して、動画で発電所の状況を見てもらえるコンテンツなども増やし、少しでも身近に感じてもらえるよう情報発信をしています。

高島勇人氏（関西電力株式会社 原子燃料サイクル部長）

電力会社や国のHPだけでは全ての情報はカバーできないと思うので、皆さまが疑問に思うところがあれば、リンク集などを活用していろいろな情報を獲得することも一つの手段だと思います。

山口彰氏（東京大学大学院教授）



大平くんのギモン

中間貯蔵施設を新たに立地することについて、社会的に受け入れられるのは難しいと思いますが、具体的なプランはあるのですか？

福井県外に施設を建設することを考えています。具体的には、2020年頃に地点を確定させ、2030年頃から操業を開始する計画です。「私の住んでいる地域の近くはいやだ」とするNIMBYという考え方もあることは承知していますが、安全性・必要性をご理解いただけるよう活動を進めていきます。

高島勇人氏（関西電力株式会社 原子燃料サイクル部長）



一般財団法人 日本原子力文化財団

〒108-0023 東京都港区芝浦2-3-31

TEL 03-6891-1572（企画部）